いろんな

家族の力手

～里親制度をご存じですか～

さまざまな事情により実家庭で生活できない子どもを自分の家庭に迎え入れ、育てる里親。家庭で温かい愛情に包まれながら育つことは、子どもにとって望ましいことです。実子2人と里子1人の子育てをされている齋藤さん夫妻に話を聞きました。

子どもたちから
教えられることが
たくさんあります

齋藤竜（さいとうりょう）さん・直巨（なおみ）さん夫妻

仲間として一緒に成長していきたい

ー里親を始めたきっかけは

直巨さん　もともと血縁の有無にかかわらず、子どもを育てることはすてきだなと思っていました。次女が2歳になり、子育ても安定してきた約10年前、親と離れて暮らさなければならない子がいるなら、一緒にご飯を食べて、寝て、わいわいする仲間として、うちに来てくれたらいいなと思い、家族に相談しました。

ー家族の反応はどうでしたか

竜さん　夫婦だって血縁はないけど家族ですよね。立派な親ではないけれど、一緒に寄り添い仲間として成長していければ、という気持ちでした。子どもたちだけでなく、親戚一同、誰も反対しませんでしたね。

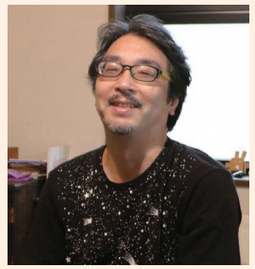
直巨さん　いざ「児童相談所へ連絡を」となった際、電話の前でいろいろと考え込んでしまいました。その時、「早く電話しなよ」と当時小学校2年生だった長女が背中を押してくれたのです。

子どもと向き合い話を聞きだすことが大切

ー苦労したことや困ったことはありますか

直巨さん　三女が乳児院からうちへ来てくれた当初、本当は食べたいのに「食べない」と言うなど、いわゆる試し行動があり大変なことも。子どもなりに「安心していいのかな？」と確認していたのですね。常に「あなたのことを大切に思っている」と伝え、子どもと対話を重ねました。

竜さん　実子も里子も特別扱いはせず、それぞれの思いを聞く。私たちは彼女たちの意思を大切にしながら、どうしたら実現できるかを一緒に考えるようにしています。



仲良く助け合って
暮らすことが大事ですね

なにげない日常に
幸せを感じています

ーうれしかったことは

直巨さん　三女はサッカーが大好き。好きなものができると自分を肯定できるようになります。子ども本来の笑顔を見ることができた時は、たまらなくうれしいです。最近は、私が落ち込んでいると「直さんなら大丈夫」と慰めてくれ、逆に力を与えてくれます。

竜さん　乳児院へ何度も面会に行き、うちへ来るかどうかは、三女本人に決めてもらいました。今、「選んで良かった」と言ってくれ、本当にうれしいです。

ー里子にとって何が大事だと思いますか

直巨さん　永続的なつながりだと思います。乳児院、児童養護施設、里親と環境が変わっても、その子の育った歴史が断ち切られないこと。自分の成育史を知ることができることは、とても大事なことなのではないでしょうか。私たち里親は施設と違い「同じ場所」に「同じ人」がずっといます。子どもには、実家のようにいつでも帰っておいでと伝えています。

▲ 日頃の家事も夫婦二人三脚で行っています

齋藤さんから

活動をしてみたい方へのメッセージ

その子に何が必要なのかは、目の前の子どもが答えを持っています。子どもの声に耳を傾けて、対話しながら子育てしていくことが大切だと思います。悩んだ時は一人で抱え込まず、自分の気持ちや感覚にあった人に相談を。児童相談所の職員や先輩の里親など、多くの仲間と一緒に成長していきましょう。里親サロンなど、当事者同士で学び合う場もありますよ。